様式第３０号（その１）

避難器具標準仕様書

１．　避難器具の設置状況

設　　置　　階（階）						
用　　途						
収容人員算定数（人）						
必要とする個数（個）						
減免できる個数（個）						
設　置　個　数（個）						
避難器具の種別						
地盤面から設置位置までの高さ　　（m）						

□　避難器具を設ける開口部は、相互に同一垂直線上にないものを選定し、その大きさは、高さ（　　）m、幅（　　）mとする。

□　避難器具を設けるバルコニー等は、手すりその他転落防止のための措置を講じたもので、その大きさは、長さ（　　）m、幅（　　）mとする。

□　バルコニー等に設ける降下口は、直径（　　≧50）cmの円が内接することができる大きさとし、直下階の降下口と相互に同一垂直線上にない位置に設ける。

□　避難器具の操作に必要な空間を有効に確保する。

□　避難器具又はその取付け具は、防火対象物の柱、床、はりその他構造上堅固な部分又は堅固に補強された部分に、（□ボトル締め　□埋込み　□溶接）で堅固に取り付ける。

□　避難器具を設置し、又は格納する場所には、その見やすい箇所に避難器具である旨及びその使用方法を表示する標識を設ける。

（注）　避難器具の取付け具の構造及び強度については、強度計算書を添付する。

２．避難器具の設置個数を減免する階及び理由

減免する階	減免個数	減免する理由

３．避難器具を設置しない階及び理由

設置しない階	設置しない理由

４．添付図書

□ 付近見取図　□ 建築物の配置図　□ 立面図
□ 平面図　□ 断面図　□ 機器構造図
□ 機器材質表　□ 取付け具詳細図　□ 設置部分詳細図
□ 強度計算書　□ 標識板詳細図

５．その他

(1) 工事中において、設計書と異なる工事をしようとする場合は、工事管理者及び所管消防署の指示を受けて行うものとする。

(2) 工事竣工後、消防職員立会いのうえ、所要の試験及び検査を受けるものとする。
なお、完成検査時検査の困難な部分については、あらかじめ、所管消防署と連絡をとり中間検査を受けるものとする。

様式第３０号（その３）

避 難 器 具 の 概 要 表

種　別	型　式	商 品 名	型式番号	設置個数	製造者名	製造番号	製造年月
緩 降 機				個			
救 助 袋	垂 直 式			個			
	斜 降 式			個			
	ハッチ式			個			
金 属 性 避難はしご	固　定 はしご			個			
	つり下げ はしご			個			
	立てかけ はしご			個			
	ハッチ式 はしご			個			
すべり台	らせん式			個			
	直 行 式			個			
避 難 橋	固 定 式			個			
	移 動 式			個			
避 難 用 タラップ				個			
その他の 避難器具 （　　）				個			
工事施工者							
そ の 他							